

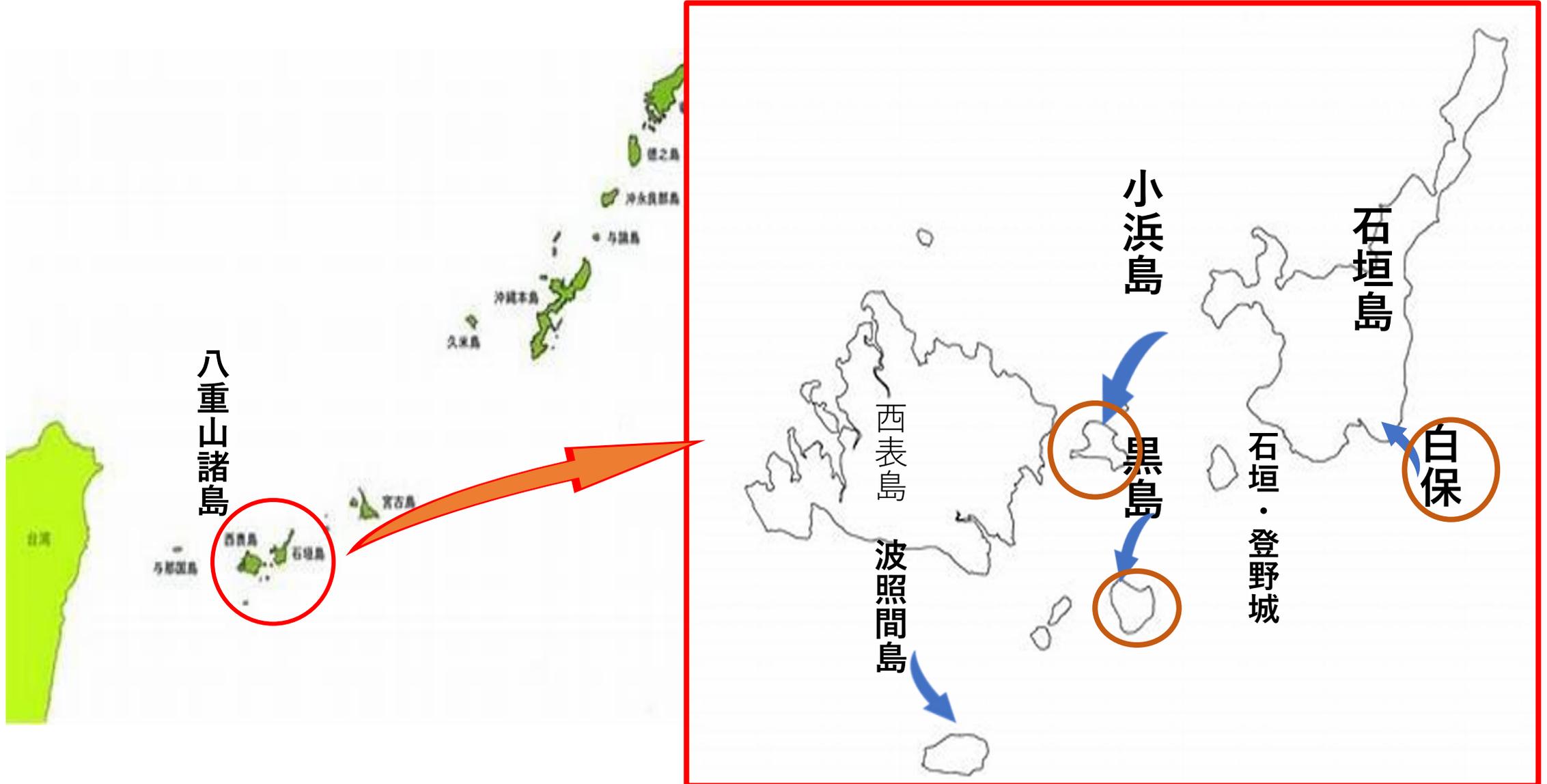
2026.3.15. 令和7年度第2回合同研究発表会
「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」

八重山諸島の韻律体系と 音節構造の変化について

* 本研究はJSPS科研費 25K00453 および 24K00068の助成を受けている。

松森晶子（日本女子大学名誉教授）

八重山の島々の位置



八重山語アクセント記述の現在：複合語のアクセント型に着
することを出発点に、現在「三型体系」が相次いで発見されつつある。

- (1) 複合語に3つ（以上の）型の区別が出現することが発見される（松森 2015）。その後、最近（特に2024年以降）になって多くの方言が「三型」（波照間は「五型」）体系を持っていることが判明（特にセリック ケナン氏の一連の調査・研究により）。
- (2) 単純語にも、3種（以上）の型の対立が見られる話者がいる方言もある。 黒島：松森 2015（単純語ではa型とb型が合流の傾向）；小浜島：セリック・麻生 2024a（単純語ではb型とc型が合流の傾向）；石垣島四箇・大浜：セリック・麻生 2024b。しかしその対立のほとんどは消滅寸前の状態であり、複合語ほど明瞭な3種類の対立は見られない。

八重山諸島の体系についての課題

(1) 八重山諸島の各体系が、それぞれどのような音調変化のプロセスを経て現在のようになったのか。

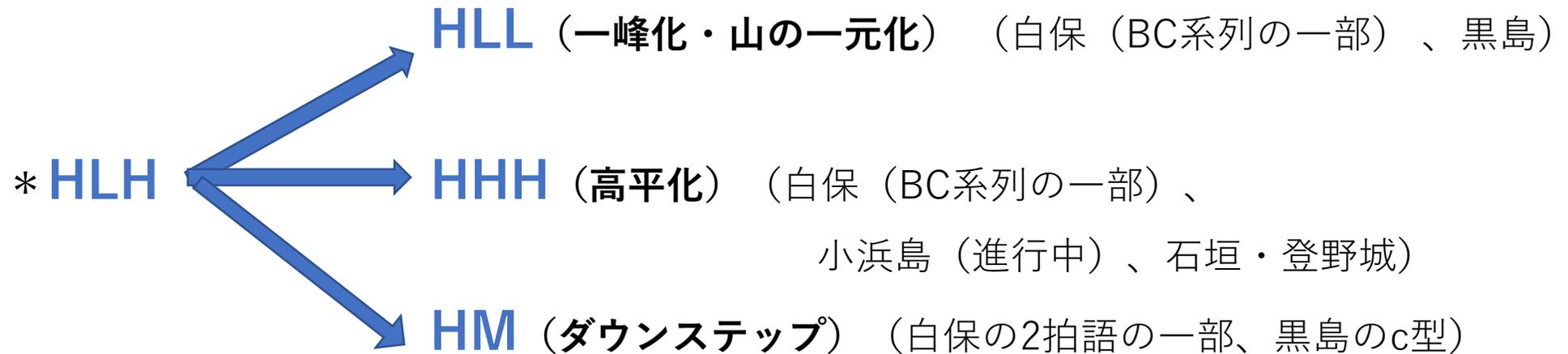
それを考察することが今後の主要な研究テーマの一つ。

(2) 現時点では、韻律体系の大幅な組み換えが

急速なピッチで進行中。 **その音声（特に高年層の音声）を残し、データベース化して将来に継承することが重要。**

本発表の要点

- (1) 八重山諸島を通じ各体系の組み換えには、(HLHのような) **重起伏音調**の発生と、その後その重起伏がたどった音調変化が関与していることを提案。(祖語のB,C系列に)



- (2) (そしてもし時間があれば) 石垣、登野城など (の祖体系) に生じた名詞の第一音節の長音化にも、この重起伏音調が関与している可能性があることも示唆。

白保方言：3種の型(明治36 (1903) 年生まれの話者)

H2型 pətsi] (橋) / pətsi] nu (橋が…)

pəna] (鼻) / pəna] nu (鼻が…)

H0型 [pətsi (箸) / [pətsi nu (箸が…)

[pəna (花) / [pəna nu (花が…)

型の統合・分裂 (麻生・小川 2016)

下降上昇型

ja] · [ma (山) / ja] ma [nu (山が…)

ma] · [mi (豆) / ma] mi [nu (豆が…)

na] · [bi (鍋) / na] bi [nu (鍋が…)

nu] · [tsi (命) / nu] (t)tsi [nu (命が…)

[matsi (松) / ma] tsi [nu (松が…)

白保方言：3種の型(明治36 (1903) 年生まれの話者)

H2型 kipu]si (煙) / kipu]si nu (煙が…)



tata]mi (畳) / tata]mi nu (畳が…)

H0型 [tamunu (薪) / [tamunu nu (薪が…)



[pitegi (畑) / [pitegi nu (畑が…)

下降上昇型

型の統合・分裂 (麻生・小川 2016)

de] gu [ni (大根) / de] guni [nu (大根が…)



ga] ra [si (烏) / ga] rasi [nu (烏が…)

ma] : [su (塩) / ma] : su [nu (塩が…)



白保方言：3種の型の特徴（話者：明治36（1903）年生れ）

H2型 ɕiki] munu（漬物） / ɕiki] munu nu（漬物が…）

ɸuɽɕu] guru（懐） / ɸuɽɕu] guru nu（懐が…）

H0型 [ɕitumutɕi（朝） / [ɕitumutɕi nu（朝が…）

[ʔisimusi（動物） / [ʔisimusi nu（動物が…）

下降上昇型

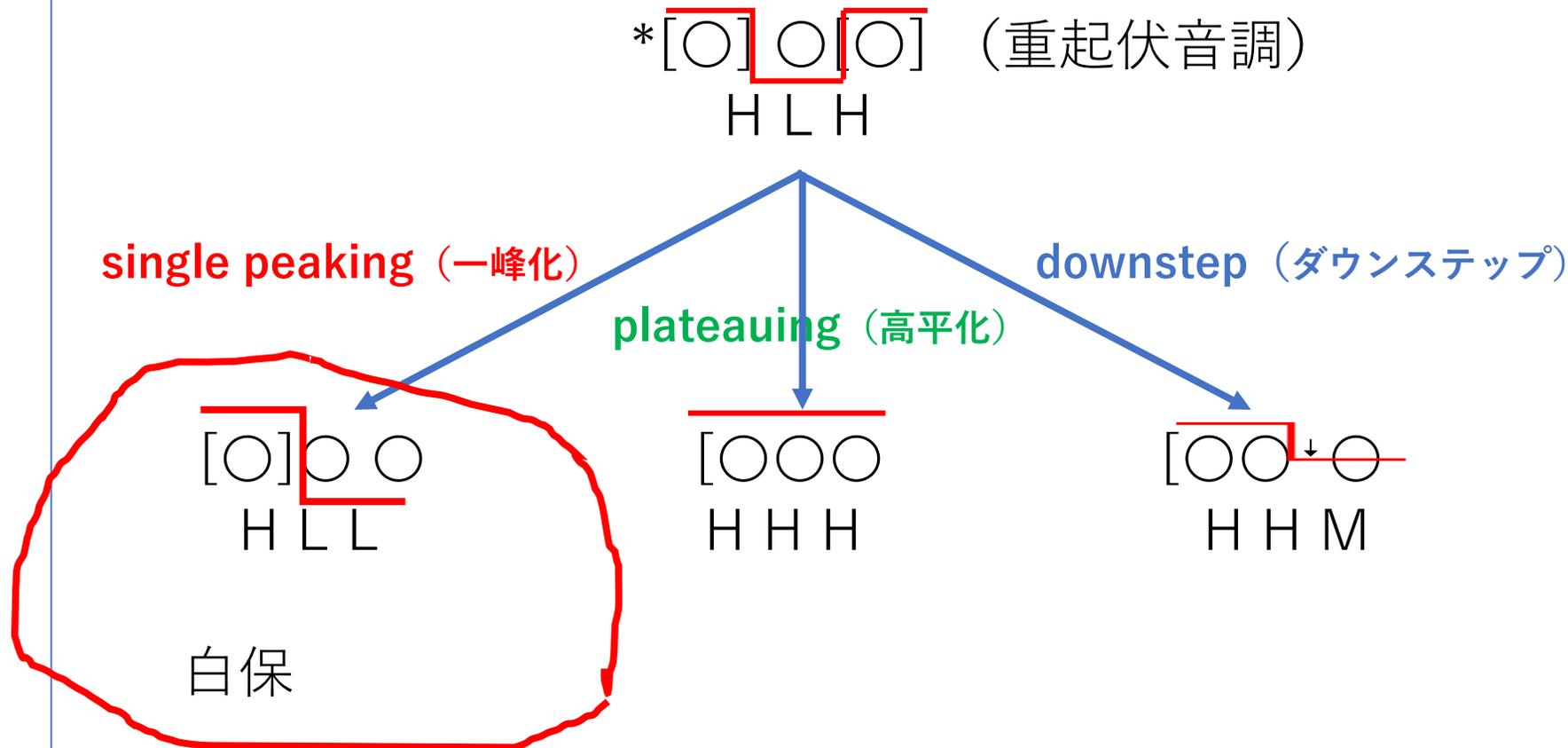
型の統合・分裂（麻生・小川 2016）

na] rimu[nu（果物） / **na]** rimunu [nu（果物が…）

ba] gamu[nu（若者） / **ba]** gamunu [nu（若者が…）

八重山諸島のb、 c型に生じた変化（一峰化）

重起伏の韻律型がたどる変化の可能性：



白保方言：3種の型(大正11 (1922) 年生まれの話者)

H2型 bidu]mu (男) / bidu]mu ndu (男が…) / bidu]mu nu (男の声が聞こえる…)

bigi]ri (男兄弟 (女から見た)) / bigi]ri ndu (男兄弟が…) / bigi]ri nu (男兄弟の音が…)

H0型 (ピミジャ類)

[pimidza (山羊) / [pimidza ndu (山羊が…) / [pimidza nu (山羊の…)

[?itɕifu (従兄弟) / [?itɕifu ndu (従兄弟が…) / [?itɕifu nu (従兄弟の…)

H1型 (ヤラビ類) (<下降上昇型)

ja]ra ([)bi (子供) / ja]rabi ndu (子供が…) / ja]rabi nu (子供の…)

mi]dumu (女) / mi]dumu ndu (女が…) / mi]dumu nu (女の…)

bu]nari (女兄弟 (男から見た)) / bu]nari ndu (女兄弟が…) / bu]nari nu (女兄弟の…)



白保方言：3種の型(大正11 (1922) 年生まれの話者)

H2型 $\phi\dot{u}t\dot{c}i]$ (口) / $\phi\dot{u}t\dot{c}i]$ ndu (口が…) / $\phi\dot{u}t\dot{c}i]$ nu (口の中に…)

$p\dot{i}t\dot{u}]$ (人) / $p\dot{i}t\dot{u}]$ ndu (人が…) / $p\dot{i}t\dot{u}]$ nu (人の声が…)

H0型 $[\dot{?}u\dot{c}i$ (臼) / $[\dot{?}u\dot{c}i$ ndu (臼が…) / $[\dot{?}u\dot{c}i$ nu (臼の中に…)

$[\dot{?}aba$ (油) / $[\dot{?}aba$ ndu (油が…) / $[\dot{?}aba$ nu (油の中に…)

H1型 (<下降上昇型)

$ba \downarrow ta$ (腹) / $ba]ta$ ndu (腹が…) / $ba]ta$ nu (腹の中…)

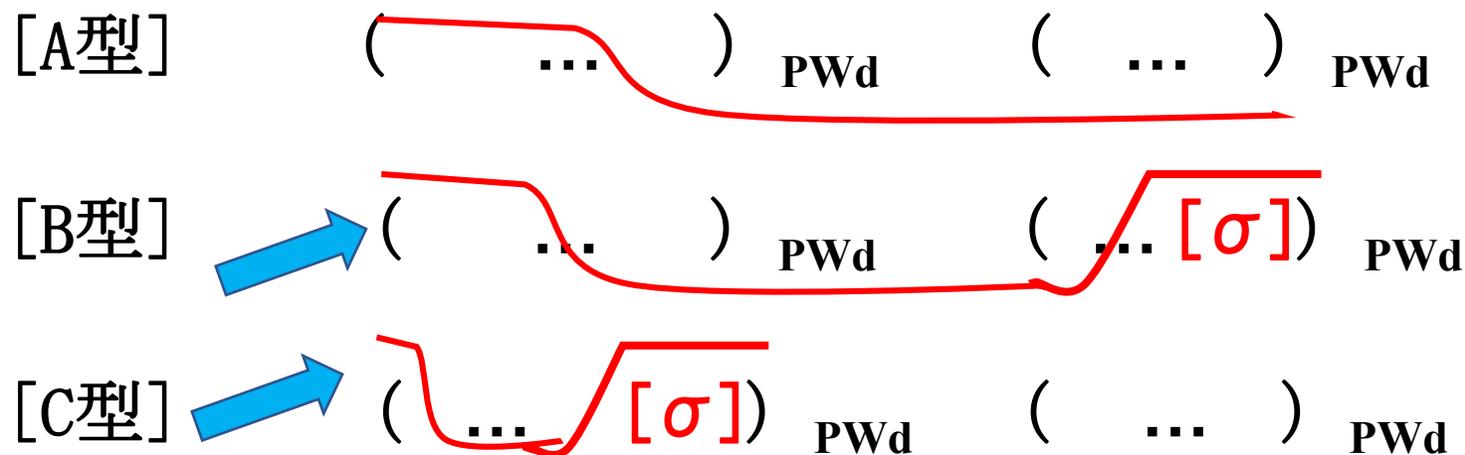
=== (山) / $ja]ma$ du (山が…) / $ja]ma$ nu (山の中…)

八重山祖語の韻律体系とそこに生じた変化

祖体系（仮説）（松森2024をもとに作成）

第1韻律語

第2韻律語



- (1) b型は第2韻律語に、c型は第1韻律語の最後の音節(?)が上昇。
- (2) 文節内に上昇が生じているのはこの2つの型(b型とc型)のみ。
- (3) そこにあらたに文節の頭にH音調が生じると、この2つの型には**重起伏音調 (HLH)**が生じる

白保方言の韻律体系の変化

(1903→1933年生まれの話者までの変化)

H2型

[0] 単独
言い切り

pə] n̩a (鼻)

kipu]si (煙)

ɕiki]munu (漬物)

[1]
+ 属格nu

pə] n̩a nu (鼻の…)

kipu]si nu (煙の…)

ɕiki]munu nu (漬物の…)

A系列

下降上昇型 > H1型

single peaking (一峰化) が生じた

*ja] · [ma (山) > ja] † ma

*ja]ra[bi (子供) > ja]rabi

*na]rimu[nu (果物) > na]rimunu

*ja] ma [nu (山の…) > ja] ma nu

*ja]rabi[nu (子供の…) > ja]rabi nu

*na] rimunu [nu (果物の…) > na] rimunu nu

BC系列 (ヤラビ類)

H0型

[pə]n̩a (花)

[pimidza (山羊)

[ɕitumutɕi (朝)

[pə]n̩a nu (花の…)

[pimidza nu (山羊の…)

[ɕitumutɕi nu (朝の…)

BC系列 (ピミジャ類)

白保：重起伏の消滅と体系の変化

<1903年生まれの話者の体系（推定）>

<1922・1933年生まれの話者の体系>

* kipu]sɪ nu (煙の…) ●●○○

kipu]sɪ nu ●●○○ H2

* ja]rabi nu (子供の…) ●○○●

ja]rabi nu ●○○○ H1

single peaking (一峰化)

* [pimidza nu (山羊の…) ●●●●

[pimidza nu ●●●● H0

本発表の仮説：H0型（ピミジャ類）も、もとは重起伏音調を持っていたのでは？

* pi]midza nu > [pimidza nu (plateauing (高平化))

白保における韻律型の変化（一峰化と高平化）

ヤラビ類とピミジャ類の重起伏がたどった変化：

*[○]○[○] (重起伏音調)
H L H

single peaking (一峰化)

[○]○○
H L L

ヤラビ類

*ja]ra[bi (子供) > ja]rabi

plateauing (高平化)

[○○○
H H H

ピミジャ類

*pi]mi[dza (山羊) > [pimidza

downstep (ダウンステップ)

[○○↓○
H H M

白保方言における韻律体系の組み換え

Stage 1

Stage 2

A:	* kipusi nu (煙の...)	oooo	>	* kipusi nu	●ooo
BC:	* jarabi[nu (子供の...)	oooo●	>	* jarabi [nu	ooo●
	* pimidza[nu (山羊の...)	oooo●	>	* pi]midza [nu	●ooo●

語頭隆起によって一部(b型のうち無声子音から始まる語)に重起伏が生じる。

Stage 3(明治33年生まれの話者の体系)

現代

>	ki]pusi nu	●●oo	>	kipu]si nu	●●oo	H2
>	* ja]rabi[nu	●ooo●	>	ja]rabi nu	●ooo	H1
>	[pimidza nu	●●●●	>	[pimidza nu	●●●●	H0

plateauing (高平化)

single-peaking (一峰化)

白保方言の「家」の祖形は？

下降上昇型 ja] · [ma (山) / ja] ma [nu (山が…) >

現在 (H1型) ja + ma (山) / ja] ma ndu (山が…) / ja] ma nu (山の…)

H0型 [t i : (手) / [t i : ndu (手が…) / [t i : nu (手の…)

課題：「家」のアクセント

(1) 明治36 (1903) 年生まれの話者： ç i : (家) / ç i] : [nu (家が…) 下降上昇調

もしもともと / ç / から開始する語だったとすると、 × [ç i : (家) / × [ç i : nu (家が…) となるはず。

祖形についての仮説 (現時点での) : * j i : > ç i :

(2) 昭和8 (1933) 生まれの話者 ç i : (家) / ç i] : du (家が…) /

ç i] : nu naga go ~ [ç i : nu naga go (家の中に…)

(3) 大正11 (1922) 年生まれの話者： [ç i : nu naga na (家の中に鼠がいる)

八重山諸島の b型 と c型 に生じた変化（その1：一峰化）

重起伏の韻律型がたどる変化の可能性：

*[○]○[○] (重起伏音調)
H L H

single peaking (一峰化)

plateauing (高平化)

downstep (ダウンステップ)

[○]○○
H L L

[○○○
H H H

[○○]↓○
H H M

白保のヤラビ類、黒島

白保のピミジャ類、小浜島

黒島方言：地名から開始する複合語

[a型]

[kubama pusu nu kui] nu ɕi[kariruN (小浜人の声が聞こえる)

pa[tiruma pusu nu kui] nu ɕi[kariruN (波照間人の声が聞こえる)



[b型]

ja[matu pusu] nu [kui] nu ɕi[kariruN (大和人の声が聞こえる)

ɸu[kina : pusu] nu [kui] nu ɕi[kariruN (沖縄人の声が聞こえる)



[c型]

pa[tu]ma pusu nu [kui] nu ɕi[kariruN (鳩間人の声が聞こえる)

ku[ruci]ma pusu nu [kui] nu ɕi[kariruN (黒島人の声が聞こえる)

ta[ki]dun pusu nu [kui] nu ɕi[kariruN (竹富人の声が聞こえる)



黒島方言：複合語に見られる3種の型

「～人の声が聞こえる」 下降に着目

第1 韻律語

第2 韻律語

- | | | | |
|------|------------|-----------|----------|
| [a型] | pa[tiruma | pusu nu | (波照間人の…) |
| [b型] | φu[kina : | pusu] nu | (沖縄人の…) |
| [c型] | ta[ki] duN | pusu nu | (竹富人の…) |

黒島方言

単純語に2モーラ以上の助詞が付いた場合

奪格のhara が後続した場合（昭和8（1933）年生まれの話者）

[a型] [ha : hara（井戸から）] [muru hara（丘から）] [fuɽci hera（口から）]

[abo hora（洞窟から）] [pako hora（箱から）] [maki hara（牧場から）]

[putso hara（臍から）]

現在、a型とb型の違いは消滅しつつある。



[b型] [ja : ha]ra（家から） [ti : ha]ra（手から） [dzi : ha]ra（土から）]

[min ha]ra（耳から） [jama ha]ra（山から） [bata ha]ra（腹から）]

[ʔava ha]ra（油から）]



[c型]]ʔuci hera（臼から）]ɸune hera（舟から）]nabe hera（鍋から）]

]hame hera（甕から）]mahan hara（椀から）]



黒島方言

単純語に2モーラ以上の助詞が付いた場合

向格ha + 焦点duが後続した場合（昭和8（1933）年生まれの話者）

[a型] [ha : hadu（井戸へ）] [muru hadu（丘へ）] [fuṭci hedu 口へ）]

[abo hodu（洞窟へ）] [pako hodu（箱へ）] [maki hedu（牧場へ）]

[putso hodu（臍へ）]

現在、a型とb型の違いは消滅しつつある。

[b型] [ja : ha]du（家へ） [ti : ha]du（手へ） [dzi : ha]du（土へ）

[min ha]du（耳へ） [jama ha]du（山へ） [bata ha]du（腹へ）

[ava ha]du（油へ）

[c型]]uɕi hedu（臼へ）]ḥune hedu（舟へ）]nabe hedu（鍋へ）

]hame hedu（甕へ）]mahan hadu（椀へ）

黒島方言のc型の音調

c型の2モーラ名詞の韻律型 (話者は昭和10(1935)年生まれ)

ナビ類

nabi] nu panaci (鍋の話) ?uɕi] nu... (臼の話) φuni] nu... (舟の話)

hami] nu... (甕の話) basa] nu... (芭蕉の話) tida] nu... (太陽の話)

ɕita] nu... (砂糖の話) ?uja] nu... (親の話) para] nu... (柱の話)

muku] nu... (婿の話)



黒島方言の韻律変化 (松森2024)

(1) H_1 の消滅 (single peaking 一峰化) と

重起伏の解消 $HLH > HLL$ H音調の拡張

***na] bi [nu... > * na] bi nu... > nabi] nu... (鍋の)**

(2) H_2 の右方向への拡張

H_2 が韻律語の最後の音節の直前のモーラにまで拡張

(**na] bi nu**) PWd

$*H_2$ L H_1

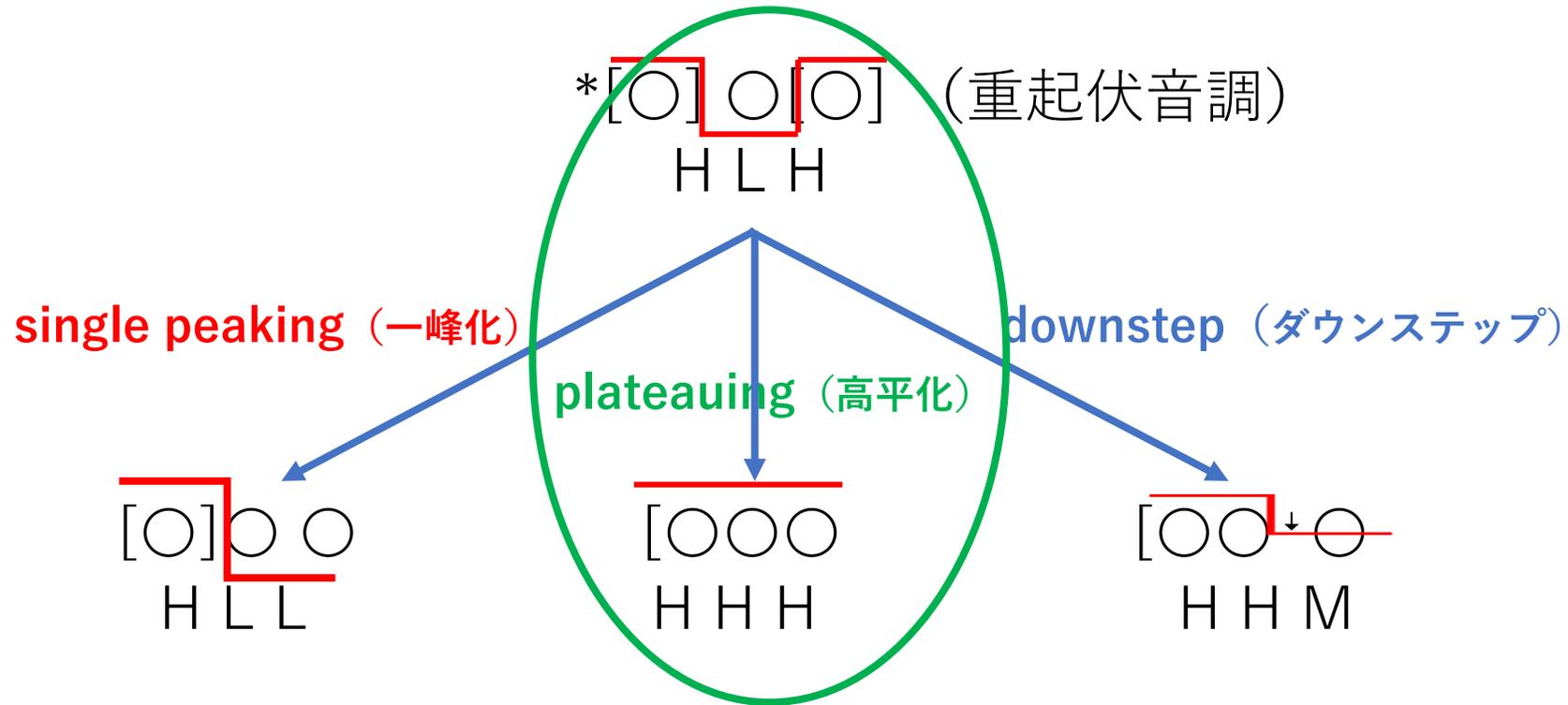
>

(**na bi] nu**) PWd

H_2 L

八重山諸島のb、c型に生じた変化（その2：高平化）

重起伏の韻律型がたどる変化の可能性：



白保のヤラビ類、黒島

白保のピミジャ類、小浜島

小浜方言：複合語に見られる3種の型（松森 2015）

昭和6年（1931年）生まれの話者

「～畑へ行く（～hataki ngeedu）」

a型 ! gusu hataki nge : du（唐辛子畑へ…）

! ?akkon hataki nge : du（芋畑へ…）

b型 ! mui hata[ki n] ge : du（麦畑へ…）

! mami hata[ki n] ge : du（豆畑へ…）

c型 go : [ja] hataki nge : du（苦瓜畑へ…）

tama[na :] hataki nge : du（キャベツ畑へ…）



小浜方言：複合語に見られる3種の型

「～畑へ行く」

第1 韻律語

第2 韻律語

第3 韻律語

a型: ! (?akkon) ω (hataki) ω (nge : du) ω (唐辛子畑へ…)

b型: ! (mami) ω (hata [ki] ω) ([n] ge : du) ω (豆畑へ…)

c型: (tama [na :]) ω (hataki) ω (nge : du) ω (キャベツ畑へ…)

b型は第2 韻律語に上昇。c型は第1 韻律語に上昇。

a型には上昇なし。 松森・新田 (2025)

小浜方言の3種の型

松森・新田 2025

!はその文節に緩い下降があることを示し、↗はその韻律語内部に上昇があることを示す

第1 韻律語

第2 韻律語

a型

! (...) ω

(...) ω

b型

! (...) ω

(↗ ... σ) ω

c型

! (↗ ... σ) ω

(...) ω

(1) b型は第2 韻律語に上昇。c型は第1 韻律語に上昇。

この特徴は複合語に残る (松森2015)。

(2) 文節の頭にH音調が生じた結果、この2つの型に重起伏音調が生じた。

小浜島：複合語に見られる3種の型

(後部要素「～味噌」の複合語：言い切り形)

a型 **! me : ku misu** (宮古味噌)

! hateruma misu (波照間味噌)

b型 **! jamatu [misu** (大和味噌)

! uk ĩ na : [misu (沖縄味噌)

c型 **tara[ma] misu** (多良間味噌)

takin[dun] misu (竹富味噌)

以下、ピッチの下降位置に“]”を、上昇位置に“[”を、緩やかな下降をもつ型の文節の頭に“!”を付けて示す。

小浜方言：3拍以上の語では、b、c型が合流

「～から戻ってきた」の最初の文節

昭和12(1937)年3月生まれの話者

a型

! me : ku kara (宮古から…)

! pateruma kara (波照間から…)

c型 (< b型)

jama [tu] kara (大和から…)

?uk ð [na :] kara (沖縄から…)

c型

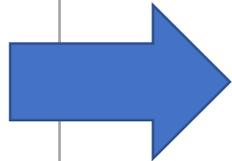
tara [ma] kara (多良間から…)

takin [dun] kara (竹富から…)



表2：b型の出現が期待される語の小浜方言における韻律型（長い語58例） 松森・新田 2025

a型	汗疹(あせも) [a:çibu], 鶉 [u'itça], 鱗(うろこ) [iraki], (舟の)櫂・櫓(ろ) [jako:], 雲 [fumo:], 刺身・膾(なます) [namasɨ], 袴 [hakama], 水甕 [bando:], 夜中 [junaka]
b型	鋸 [nikiri]
c型	新城(あらぐすく) (地名) [panari], 命 [inatsu], 海蛇 [irabu], 恨み [urami], お願い [ningai], 鏡 [kankan], 雷 [kannaru], 考え [kangai], 鉋 [k ^h anna], 休暇・いとま [ituma:], 胡瓜 [ki'uri], 許可・許し [juruçi], 去年 [kunzu], 車 [kuruma], 夏至 [ka:tçε:], 結婚 [ni:bitsɨ], 心・気持ち [kukuru], 暦 [kujon], 境 [saka'i], 定め・規則 [sandami], 職人・大工 [saiku], 調べ・検査 [çirabi], 炊事・賄(まかな)い [makanai], 宝 [takara], 頼み [tanumi], 魂 [tamasi], 俵 [ta:ra], 砥石 [tufusi], 鱸(とも)・船尾 [t ^h umo:], 流れ [na:ri], 鋏 [pa:tsan], 話し [panasi], パパイヤ [mandzu:], 光 [pikaru], 病気 [jammai], 糸瓜(へちま) [nabe:ra], 間違い [matsungai], 約束・契約 [musubi], 別れ [bakari], 椀 [makaru]
b~c	明日 [atsa:], お祝い [jo:'i], 肩 [kaina], 涙 [nanda], 枕 [mako:ra]
c~b	戦(いくさ) [ikusa], 筍の干したもの [sunçi], 左 [pindaru] (環境【1】でc型、環境【2】でb型のもの)



小浜方言では**単純語**にも3種の韻律型が見られる

(セリック・麻生 2024a) 話者は昭和10 (1935) 年と13 (1938) 年生まれ

単独言い切り形

+ 奪格助詞kara

a型	ma]i (米)	/	ma[i]	kara	(米から…)
	ju]mi (嫁)	/	ju[mi]	kara	(嫁から…)
b型	ma]mi (豆)	/	mami	ka[ra	(豆から…)
	ta]ni (種)	/	ta[ni	ka[ra	(種から…)
c型	[mai (前)	/	ma[i]	kara	(前から…)
	na[bi (鍋)	/	na[bi]	kara	(鍋から…)

小浜方言の**単純語**にみられる韻律型

(昭和24 (1949) 年生まれの話者の発話、松森2023年の調査によるデータ)

	単独言い切り形	+ 奪格助詞kara
a型	! ?a]bo (洞窟) /	! ?abo] kara (洞窟から…)
	! sun]di (袖) /	! sun] di kara (袖から…)
b型	ja : (家) /	! ja : ka ↓ ra (家から…)
	jama (山) /	! jama ka ↓ ra (山から…)
	! min ka ↓ ra (耳から…)	! bata ka ↓ ra (腹から…)
	! misu ka ↓ ra (味噌から…)	! mita] kara (泥から…)
c型	na[bi (鍋) /	na[bi] kara (鍋から…)
	φu [ni (舟) /	φu[ni] kara (舟から…)

小浜方言におけるピッチ上昇の前進化

b型：大和 +から

c型：畑 +から

第1 韻律語

第2 韻律語

*(! jamatu)_ω (ka [ra])_ω

vs.

第1 韻律語

第2 韻律語

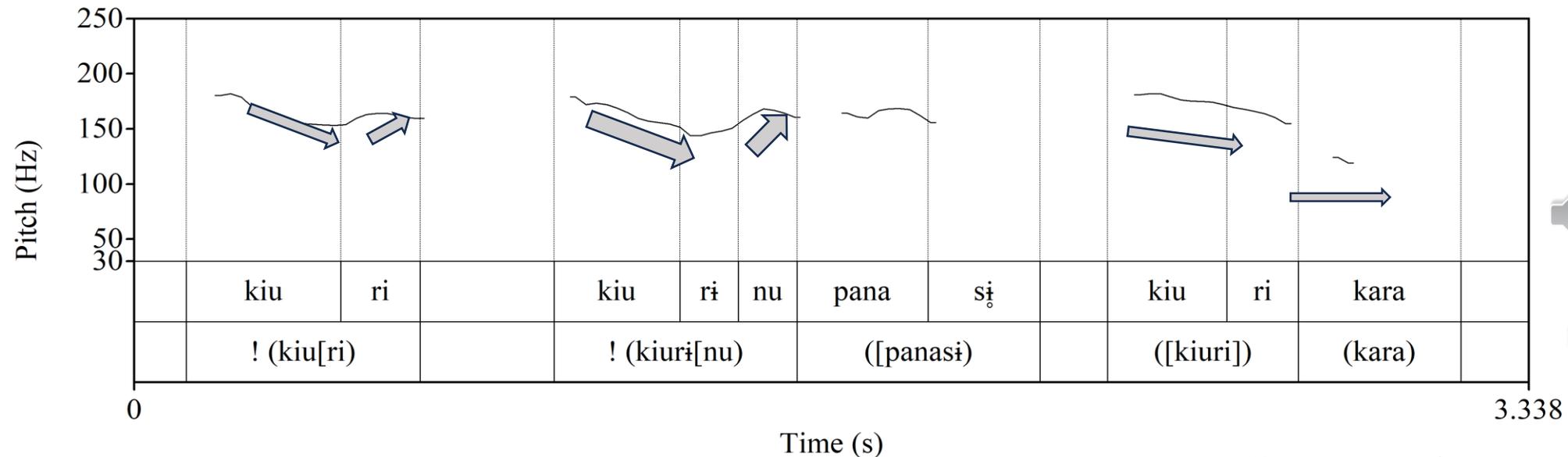
(! pata[ki])_ω (kara)

ピッチ上昇の前進化

(! jama[tu])_ω (ka ra)_ω

その結果、b型とc型が合流

重起伏の「高平化」傾向 「胡瓜」 c型



緩い下降と上昇が見られる

キウリは重起伏はなくほぼ平板
kara はピッチ表示が明確ではないがLL

通時的考察

松森・新田(2025)

小浜方言では、以下の2種類の韻律上の変化が過去に生じた(現在も生じつつある?)。

(6) ① 単純語におけるb型の「ピッチ上昇の前進化」

本来は第2韻律語に出現するはずのb型のピッチ上昇が、第1韻律語に実現。

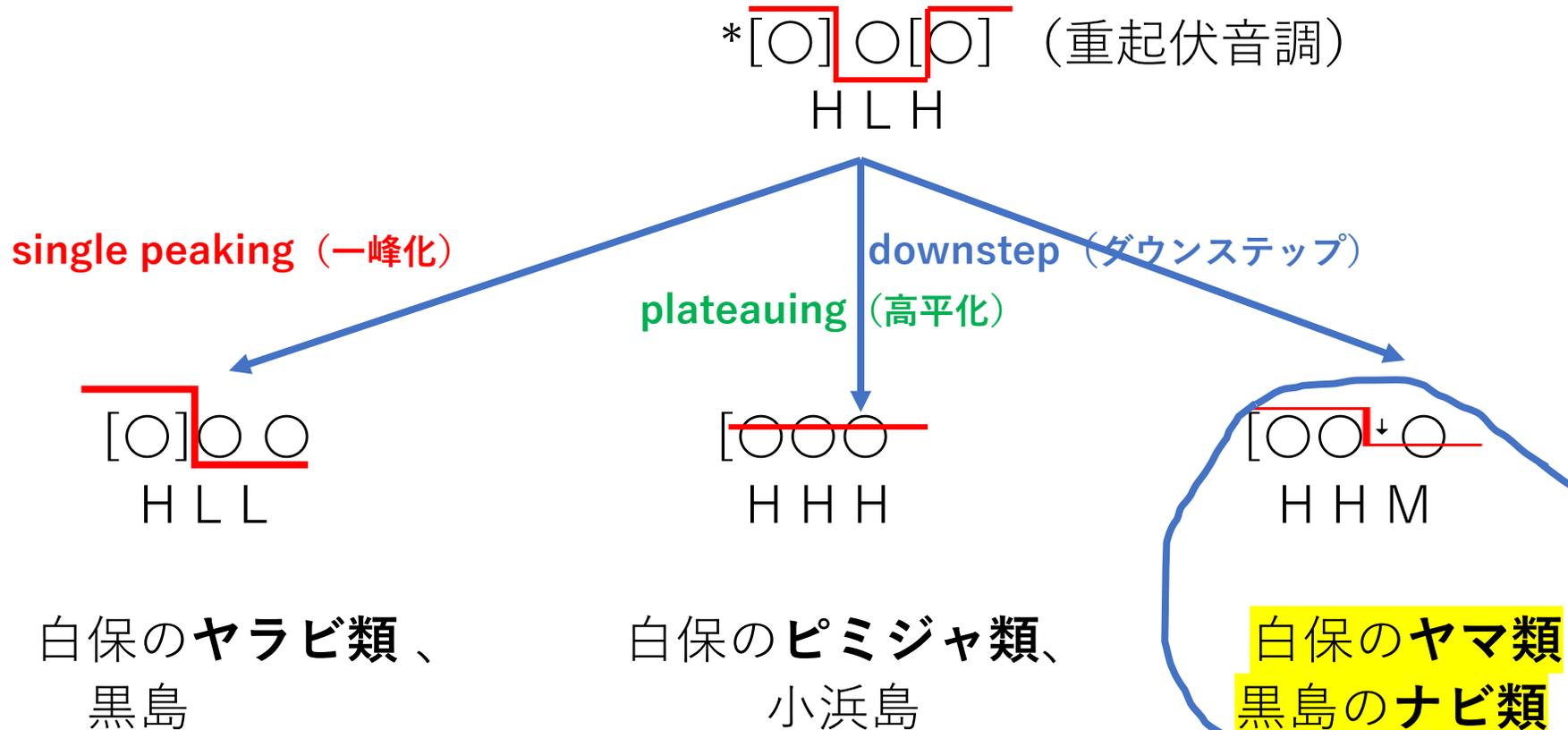
その結果、b型はc型と合流。

② c型の重起伏音調の「高平化 (plateauing)」

$\overline{H} \underline{L} \overline{H}$ (HMH) > $\overline{H H H} \sim \overline{M M M}$

八重山諸島の b型 と c型 に生じた変化（その3：ダウンステップ）

重起伏の韻律型がたどる変化の可能性：



黒島方言に生じたダウンステップ？

c型の2モーラ名詞の韻律型 (話者は昭和10 (1935) 年生まれ)

ナビ類

★ 単独形 na⁺bi (鍋) ʔu⁺ei (臼) φu⁺ni (舟) ha⁺mi (甕) ba⁺sa (芭蕉)



ti⁺da (太陽)

ci⁺ta (砂糖)

ʔu⁺ja (親)

pa⁺ra (柱)

mu⁺ku (婿)



<比較> nabi] nu... (鍋の話) ʔuei] nu... (臼の話) φuni] nu... (舟の話) hami] nu... (甕の話)

basa] nu... (芭蕉の話)

tida] nu... (太陽の話)

cita] nu... (砂糖の話)



ʔuja] nu... (親の話)

para] nu... (柱の話)

muku] nu... (婿の話)



白保方言：3種の型(大正11 (1922) 年生まれの話者)

H2型 $\phi\dot{u}t\dot{c}i]$ (口) / $\phi\dot{u}t\dot{c}i]$ ndu (口が…) / $\phi\dot{u}t\dot{c}i]$ nu (口の中に…)

$p\dot{i}t\dot{u}]$ (人) / $p\dot{i}t\dot{u}]$ ndu (人が…) / $p\dot{i}t\dot{u}]$ nu (人の声が…)

H0型 $[\dot{?}u\dot{c}i$ (臼) / $[\dot{?}u\dot{c}i$ ndu (臼が…) / $[\dot{?}u\dot{c}i$ nu (臼の中に…)

$[\dot{?}aba$ (油) / $[\dot{?}aba$ ndu (油が…) / $[\dot{?}aba$ nu (油の中に…)

ダウンステップ (2モーラの場合のみ) 中川・セリック (2019) (<下降上昇型)

ba [↓] **ta** (腹) / **ba]**ta ndu (腹が…) / **ba]**^tta nu (腹の中…) **H1型**

=== (山) / **ja]**ma du (山が…) / **ja]**ma nu (山の中…)

白保方言：3種の型（昭和8（1933）年生まれの話者）

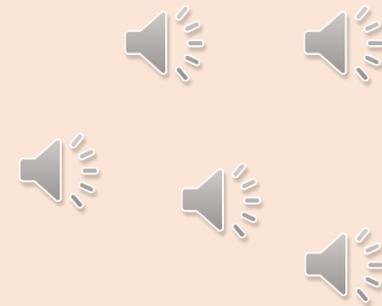
H2型 paṅa] (鼻) / paṅa] ndu (鼻が…) / paṅa] nu (鼻の…)

puṭso] (臍) / puṭso] ndu (臍が…) / puṭso] nu (臍の…)

H0型 [ʔuçi (臼) / [ʔuçi ndu (臼が…) / [ʔuçi nu (臼の…)

[ʔaba (油) / [ʔaba ndu (油が…) / [ʔaba nu (油の…)

[ti:] (手) / [ti:] ndu (手が…) / [ti:] nu (手の…)

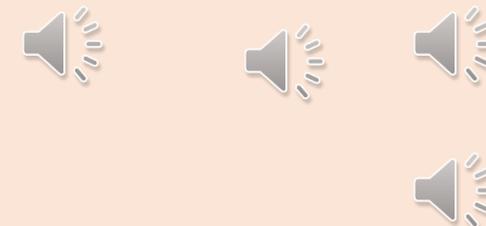


H1型 (<下降上昇型) ダウンステップ (中川・セリック 2019)

ja + ma (山) / ja] ma ndu (山が…) / ja] ma nu (山の…)

na + bi (鍋) / na] bi ndu (鍋が…) / na] bi nu (鍋の…)

ba] tta (腹) / ba]tta ndu (腹が…) / ba]tta nu (腹の…)



白保のダウンステップはなぜ生じたのか？ (1903→1933年生まれの話者までの変化)

H2型

下降上昇型 > H1型

H0型

ダウンステップ

[0] 単独
言い切り

pə] na ~ pa]na] (鼻)

kipu]si (煙)

ɕiki]munu (漬物)

*ja] · [ma (山) > ja] ↓ ma

*ja]ra]bi (子供) > ja]rabi

*na]rimu]nu (果物) > na]rimunu

[pa]na (花)

[pimidza (山羊)

[ɕitumutɕi (朝)

[1]
+ 属格nu

pa]na] nu (鼻の…)

kipu]si nu (煙の…)

ɕiki]munu nu (漬物の…)

*ja] ma [nu (山の…) > ja] ma nu

*ja]rabi] nu (子供の…) > ja]rabi nu

*na]rimunu] nu (果物の…) > na]rimunu nu

[pa]na nu (花の…)

[pimidza nu (山羊の…)

[ɕitumutɕi nu (朝の…)

A系列

BC系列 (ヤラビ類)

BC系列 (ピミジャ類)

八重山祖語の韻律体系(仮説)に生じた変化

八重山祖語の韻律体系 (松森2024) に

(語頭隆起によって) 各文節の頭にH音調が発生すると、そのB型とC型には、重起伏音調が生じる。

第1韻律語

第2韻律語

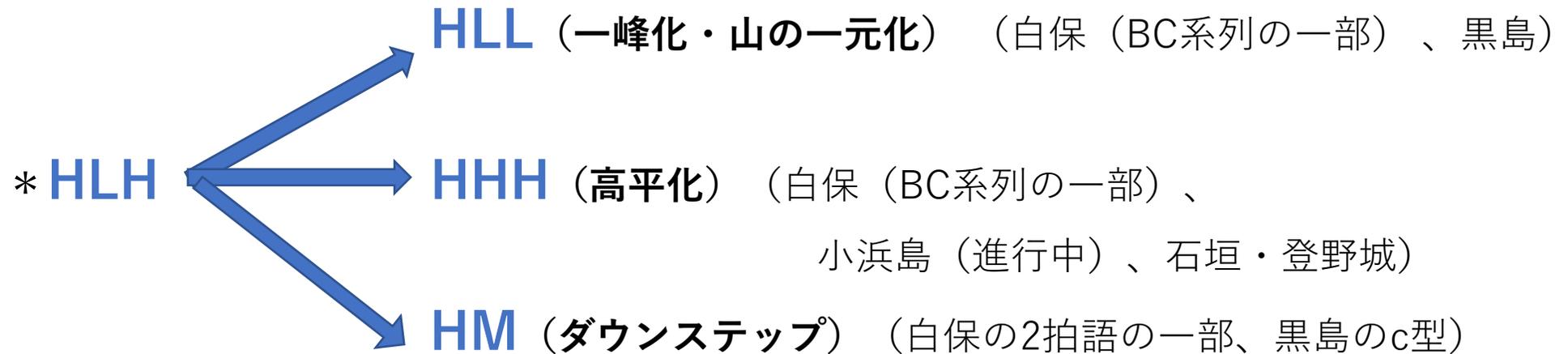
[A型] *L (...) PWd (...) PWd

[B型] *LH (...) PWd (... [σ]) PWd ←

[C型] *HL (... [σ]) PWd (...) PWd ←

本発表のまとめ

- (1) 八重山諸島を通じ各体系の組み換えには、**(HLHのような) 重起伏音調の発生**と、
その後**にその重起伏がたどった音調変化が関与していることを提案。** **(祖語のB,C系列に)**



- (2) 現時点では多くの方言で、韻律体系の大幅な組み換えが進行中。(人による差が顕著。また集落差も存在する。) **その音声 (特に高年層の音声) をデータベース化して継承することが喫緊の課題。**

参考文献

- ・麻生玲子・小川晋史(2016)「南琉球八重山語波照間方言の三型アクセント」『言語研究』150, 87-115.
- ・麻生玲子・中澤光平(2023)「南琉球八重山語波照間方言における無声化と母音長の解釈—条件異音の音韻化をめぐって」『音声研究』27, 48-63.
- ・五十嵐陽介・荻野千砂子・セリック ケナン (2025)「南琉球八重山語黒島方言の単純名詞のアクセント型の数は2か3か」
『国立国語研究所論集』28, 1-25.
- ・セリック ケナン・麻生玲子 (2024a)「南琉球八重山語小浜方言の三型アクセント体系」『音声研究』28, 1-16.
- ・セリック ケナン・麻生玲子 (2024b)「南琉球八重山語における三型アクセント体系のさらなる報告」『国立国語研究所論集』27: 115-135.
- ・セリック ケナン・麻生玲子 (2025)「八重山語波照間方言のアクセント体系の再検討—式と核に基づく分析」『音声研究』29, 183-197.
- ・セリック ケナン・麻生玲子・中澤光平(2024a)「南琉球八重山語波照間方言辞典に関する中間報告」『言語記述論集』15, 193-358.
- ・中川奈津子・セリック ケナン (2019)「琉球八重山白保方言のアクセント体系は三型であって、二型ではない」日本語学会2019 年度春期大会
予稿集 89-96.
- ・松森晶子 (2015)「南琉球の三型アクセント体系—その韻律単位に関する考察」『日本女子大学紀要 文学部』64, 55-92.
- ・松森晶子 (2016)「八重山諸島黒島方言アクセントの仕組み—その韻律範疇 PWdと下がり目の出現条件」『言語研究』150, 59-85.
- ・松森晶子 (2024)「琉球八重山諸島の黒島と小浜島の韻律祖体系の比較再建」『音声研究』28, 161-174.
- ・松森晶子 (2025)「南琉球八重山語のアクセント研究—その現状と展望—」東京大学国語国文学会『国語と国文学』 令和7年7月特集号
「声調・アクセント研究の現在」81-93.
- ・松森晶子・新田哲夫 (2025)「八重山諸島小浜島における音調変化のプロセスとその通時的意味」 第39回日本音声学会全国大会予稿集
- ・琉球方言研究クラブ (編) (2007)「石垣白保方言の音韻体系とリズム＝アクセント的構造」琉球方言研究クラブ『方言の研究』
- ・ローレンス ウェイン (2025)「波照間方言の hii『家』の語源について」日本方言研究会 (編)『方言の研究』11, 107-125.

ありがとうございました。

★本発表は、国立国語研究所の共同研究プロジェクト「日本語・琉球語諸方言におけるイントネーションの多様性解明のための実証的研究」の研究成果の一部である。なお本研究は JSPS 科研費 24K00068, および 25K00453 の助成を受けている。